

刑 法

(問 題)

2022 年度

注 意 事 項

1. 問題冊子、解答用紙および貸与六法は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
2. 問題は2頁に記載されています。問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁および汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
3. 下書用紙は一人につき一枚のみ配付します。
4. ラインマーカー、色鉛筆、修正液等は、問題冊子・下書用紙に使用することを許可しますが、解答用紙に使用した場合は、不正行為とみなすことがあります。
5. 貸与六法への書き込みは、不正行為とみなすことがあります。
6. 試験開始の指示の後、解答用紙表紙の所定欄に、受験番号、氏名を記入してください。受験番号は正確に間違いに記入してください。読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意してください。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記用具を置いてください。終了の指示に従わず筆記用具を持っていたり解答を続けた場合は、不正行為とみなすことがあります。
8. 試験終了後、問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
10. 解答用紙に記載の注意事項もあわせて確認してください。

問題 (120 点)

以下の〔事例〕を読んで、〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

1. 甲、乙、Aの3名は、会社の同僚であり、勤務終了後の22時頃、反省会と称して公園で缶ビールを飲んでいて、その最中、ささいなことから甲とAが口論になり、Aがいきなり素手で殴りかかってきたので、甲は、身を守るために素手でAの顔面を殴ったところ、Aは路上に倒れ込み、意識を失った。甲は、Aが意識を失ったことを認識したものの、Aがいきなり殴りかかってきたことに対する怒りが収まらなかったため、倒れているAの腹部を踏みつけるなどし、ろっ骨骨折の傷害を負わせた。
2. Aは、その30分後に、現場で、甲による顔面殴打が原因で死亡した。同殴打は、通常であれば人が死亡するような強度のものではなかったが、Aの脳に、Aも知らない病変があったために、甲による殴打で脳組織の破壊が生じ、Aの死に至ったものであった。
3. その間現場にとどまっていた甲と乙は、Aが死亡していることを確認した。甲は、自らAを死に至らせたことの発覚をおそれて、物取りがAを殺害したように見せかけようと考え、乙に、Aの所持している財布を持ち帰って燃やしてほしいと頼んだ。乙は、これを了承し、Aの内ポケットにあった財布を取り出し、焼却する目的で自宅に持ち帰って、翌朝焼却した。

〔設問〕

甲及び乙の罪責について論じなさい（特別法違反の点を除く）。

〔以下余白〕

